

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent・File」では、時代の趨勢となつている予防歯科への潮流の中で、日々活動されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。



秋田県秋田市で4代続く山内歯科矯正歯科の4代目山内積院長は、かつては建築学へ夢を描きながらも、歯科医療への道を進み、お父様の後を継がれました。歯科の勉強を重ねるうちに、その面白さに気付き、今では「治療しない歯科治療」という大きな理想に向かって、日々の治療や地域のデンタルI・Q向上などに取り組んでいます。一時はスタッフが減り、経営不安の波に飲み込まれそうになりつつも、その危機を乗り越え、新たなスタッフたちと共にまい進し続ける毎日です。

渋々ながら決めた歯科医師への道 今では医院を支える4代目

当院は、私の曾祖父がこの地で開院して以降、祖父・父と引き継がれて私で4代目となります。曾祖父は、まだ全国でも1桁しか歯科医師がいないような時代に、最初は宮城で開業したものの患者さんが増えずに断念。青森に移動して再度チャレンジしましたが、そちらも軌道に乗せられず、どちらの地でも苦勞したと聞いています。その次に選んだのが、現在の秋田でした。2ヶ所の失敗を経験したというところもあったのですが、秋田の水が合った

のか、ここでは経営を軌道に乗せることができ、今に至ります。

私は4代目ということもあり、幼少時代から当時のスタッフに「若先生」と呼ばれ、周囲には後を継ぐものだという雰囲気がありました。しかし、高校卒業後の進路を決める時、私は建築学の勉強がしたいと思っており、歯科医師への道は考えていませんでした。父に説得される形で、渋々歯学部への進学を決めた、というのが当時の本音です。

その後、大学で勉強を重ねるうちに歯科の奥深さと面白さに気付き、歯科医師への道を歩む覚悟が自分の中で定まっていきました。歯科と建築学に似ている面があったのも、私には合っていたのだと思います。



理想の「治療しない 歯科治療」を 目指して

山内歯科・矯正歯科

院長 山内 積 先生



ましたね。

もちろん、何世代にもわたって通ってくださる方や、口コミで来られる方も多くいらっしゃいます。しかし、多くの歯科医院がある中でひとつを選ぶときに、HPという媒体から判断する方も少なくありません。頻繁に更新するのは日々の診察で忙しい中、難しい場合もありますが見やすく診察方針がはっきりとわかるHPは、これからの歯科医院に必要な要素のひとつかも知れません。

深刻なスタッフ不足を 真摯な対応で乗り越え、 充実した体制へ

実は当院では1年ほど前、様々な事情で歯科衛生士たちがバタバタと退職することとなり、昨年4月に入職したばかりの新人1名だけが残りという、深刻なスタッフ不足に陥りました。スタッフは減っても、患者さんの数は変わりません。待ち時間も増えてしまいますし、雑務を行うにも手が足りず、大きな不安を抱えることになりました。

そのとき患者さんには、しばらくはご迷惑をおかけするかも知れないことを正直にお話しました。広くない院内では、スタッフが減ったことは見ればわかります。待ち時間が増えること、治療にあたる歯科衛生士が変わり、慣れずに痛い思いをさせてしまう可能性が



あることなどを素直にお伝えして、真摯に治療を行いました。それが、その時できる精一杯の対応だったと思います。幸い、患者さんのご理解もいただくことができ、診療を続けていくことができました。

その後、思ったよりも早く他院で勤務経験がある歯科衛生士が入職することになりました。そこからは良い流れができ、新卒の歯科衛生士も入職して、今では歯科衛生士5名という充実したスタッフ体制となっています。増員したスタッフのほとんどが経験も浅いので、まずは全員が同じレベルで一通りの仕事ができるように教育している最中です。それができるようになったら、今度は一人一人の知識やスキルをブラッシュアップさせていけるよう、院内指導だけではなく、講習会や学会などにも参加させていきたいと思っています。

大きな理想に向かって、 小さな目標からひとつずつ

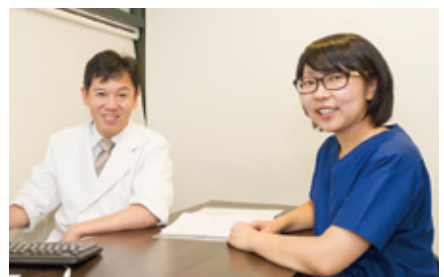
当院では「治療しない歯科治療」を理想として掲げています。一人一人が、しっかりとしたセルフケアと定期的なメインテナンスをすること、それを何世代にもわたって続けていくこと。それが叶えば理想に届くはずですが、もちろん、そこまでの道は非常に険しいものです。

お口の中の健康は、子供のころから培われます。そのため、子供を育てる「親の意識」がとても大切だということも言うまでもありません。当院では妊娠中の患者さんなどに、むし歯菌は親から子供へうつること、そのため親の口腔環境を出産前に改善することが必要だということをお話し、親世代の意識向上

に努めています。当院に定期的に来院されている患者さんは、そもそもお口の中への関心が強い方々ですから、きちんとお伝えすれば、出産後もお子様のお口にも気を配って、丁寧にケアしていただくことができます。

今の課題は、定期的に歯科医院に通っていない方々について、どのようにして意識を変えて、歯科医院に来ていただけるようにするかです。私は現在、小学校の学校歯科医も担当していますが、検診などの公衆衛生活動を通じて、なるべく多くの方に口腔ケアの必要性を知っていただき、地域全体のデンタルIQ向上に努めていかなければならないと思っています。それによって、「治療しない歯科治療」に、一歩近づけると考えています。

理想への道のりはまだまだ遠いものです。大切なことは、小さな目標を設定して、それをひとつずつこなし、理想という頂上を目指して登り続けることだと思えます。大きなものだけを目標していると途中で倒れてしまいますが、小さな目標でも達成できると、達成感も得られます。それを励みに、また次の目標へと進み、常に歩み続けたいと思います。



山内 積(やまのうちのせき)先生 プロフィール

1991年に東北大学歯学部を卒業後、東北大学病院矯正歯科に入局。その後、矯正専門開業医勤務を経、1997年に山内歯科矯正歯科医院勤務。2004年に医院を継ぎ、山内矯正歯科医院を開院。2012年、山内歯科・矯正歯科へ院名変更し、現在に至る。

若手歯科衛生士の教育と自身の成長につながる学びの充実を



歯科衛生士 石井 明子さん

人員不足の真っ只中に入職

私は歯科衛生士としての経験は今年で6年目で、当院の前には一般歯科医院での勤務経験がありました。結婚を機に秋田に引っ越し、当院には約1年前に入職しました。山内院長のほかには新卒で入職1年目の歯科衛生士・佐藤のみという、スタッフが不足して大変な時期でした。とにかく少しくも早く、患者さんにご迷惑をおかけしない体制に戻すためにも、勤務初日から患者さんの診療に加わりました。前に勤務していた医院で矯正に携わっていたこともあり、その経験を生かすことができました。入職後数ヶ月は正直とても忙しく、大変ではありましたが、そこを乗り越え、今の体制まで持ち直すことができましたので良かったと思います。

今後の目標は後輩指導と自身のスキルアップ

その後、新しいスタッフが加わり、今では後輩が3人います。歯科衛生士としての経歴は私が一番長く、なにかと指導

する立場ではあるのですが、なかなか1対1でしっかりと教えてあげられないことが気がかりです。もう少し全員がしっかりと基本の業務ができるようになったら、自分が1年目の時にしてもらったような、丁寧な指導をしてあげられたらと思っています。また、後輩のことだけではなく自分自身のスキルアップもしていきたいですね。私の父も医療従事者なのですが、「医療に携わる人はずっと勉強を続けなければいけない」と言っており、本当にその通りだと思えます。技術も理論も、どんどん変わっていきますから、時代に置いて行かないようにセミナーに参加したり本を読んだりして、勉強を続けていきたいと思っています。



入職1年目で迎えた試練 それを乗り越え、医院を支える歯科衛生士に



歯科衛生士 佐藤 芹香さん

入職1年目、歯科衛生士が自分1人に

私は専門学校を卒業してすぐ、当院に入職し、今年で2年目になります。昨年の冬、ベテラン歯科衛生士の先輩方が一度に退職され、自分だけになってしまう時は、とにかく突然で、困惑したことを覚えています。

しかし、患者さんは変わらずにいらつしゃるので、「やるしかない」と覚悟を決めて、業務にあたりました。その時に思い知ったのは、自分がいかに先輩方に頼りきっていたかということです。できないことや不慣れなことが多く、患者さんにも不安に感じることが多々あったと思います。それでもとにかく自分しかできない状況でしたから、がむしゃらに頑張りました。

その経験をしてからは、自分の中に責任感が生まれたのを感じています。それまでは先輩任せにしていたことも、自分がやらないと始まらないと思って、院長に聞いたり自分で調べたりしながらも取り組んでいたことが、自分の成長に繋がったのだと思います。

後輩を引っ張っていきけるような歯科衛生士に

石井が入職してからは、まだまだ忙しいものの、1人だったときに比べればかなり安心感がありました。石井は他医院での経験がありましたので即戦力として診療にあたっており、私はそれを見ながらどんどん吸収していこうという思いでした。自分だけで頑張っていた経験があったからか、石井に教えてもらいながら学ぶスピードは速かったように思います。

歯科衛生士としての経験は石井の方が長いですが、当院での勤務年数は私が一番長いですが、知識面やスキル面などでは、まだまだ石井を頼りにしてしまいう面がありますが、任せきりにするのはなく、石井と一緒に後輩たちを引っ張って行けるような歯科衛生士になって、今後の医院を支えていきたいと思っています。

